

[様式11]

(対象事業：展覧会事業等支援)

事業名：どこでも展覧会
スクール・ミュージアム

事業者名：練馬区立美術館

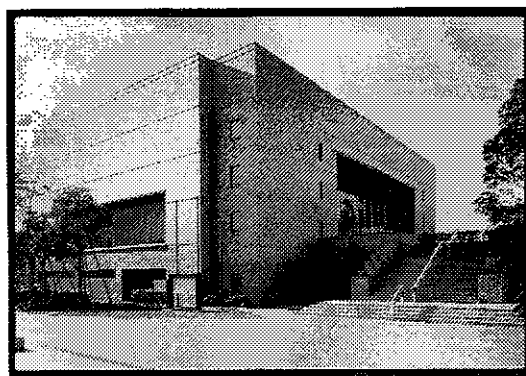
連携事業館名：無

住所：東京都練馬区貫井1-36-16

TEL：03(3577)1821

FAX：03(3577)1824

HPアドレス：www.city.nerima.tokyo.jp/museum/



①施設概要

当館は、日本の近代・現代美術をテーマに昭和60年10月1日に開館。練馬区ゆかりの優れた美術作家の作品をはじめ、戦後埋もれた作家の発掘にも力を注ぎ、幅広い視点から展示・作品収集等の事業展開をしている。また、地域の美術館として、子どもを対象とした鑑賞教室やワークショップをはじめ、学校との連携事業、ボランティア活動にも力を入れている。

②事業の意図目的

「スクール・ミュージアム」は、主に学校の学習支援を目的に制作した作品鑑賞用の教材である。区民の財産である美術館のコレクションを学校の授業で活用してもらうことにより、子どもの豊かな感性を育み、それとともに美術館やさまざまな美術に興味を広げるきっかけになることを期待するものである。

今後、「スクール・ミュージアム」を使った授業の内容を研究する場も設け、事業の充実を図る予定である。

③事業概要

「スクール・ミュージアム」は、コレクションのマグネットカード、専用の展示パネル、アートカード等を使って「子ども美術館」が体験できる学校向けの作品鑑賞用教材である。子どもが目と手を使って楽しみながら作品に興味を広げ、本物の作品を見るきっかけになるのが魅力である。用途は、展覧会の鑑賞の事前学習をはじめ、図工・美術・総合の授業、文化祭（部活動を生かした鑑賞活動の成果を「子ども美術館」として発表）など、学習目的や教材の使い方によってさまざまな場で活用することができるのが特色である。

教材開発にあたり、学校現場で活用しやすい教材の形状と楽しく授業が展開できるように、地域の小・中学校の図工および美術教諭をはじめ、地元の美術大学や区在住の教育研究者らにご協力いただいた。2月に協力委員の小・中学校でモデル授業（公開授業）を実施した。教師が学校の現場で使いやすいように、ガイドブック（指導者向け）には、教材の使い方とあわせて授業の内容を事例として掲載した。

④事業の製作物

①「子ども美術館セット」

（イベント用大型展示パネル6台、卓上小型展示パネル25台、コレクションのマグネットカードA3大・A4大各104枚、マグネットキャプション104枚）

②「ガイドブック（指導者向け）」1,500冊

③「アートカードセット」（10.6×7.5センチ、表面はコレクションのカラー図版・裏面は1色刷りの作品の基礎データ。）

⑤参加者状況（教材を使ったモデル授業の実施校）

計2校（生徒数延べ59名）

●練馬区立練馬第三小学校

内訳：生徒数 30名（1クラス） ★見学した学校関係者等 10名

●練馬区立豊玉中学校

内訳：生徒数 29名（1クラス） ★見学した学校関係者等 8名

※本格的な運用は4月以降となる。

(1)事業の実施状況について

教材の制作にあたり、下記のスケジュールでとり行った。当初は、7月から準備をすすめる予定であったが、協力委員の海外研修等で10月からスタートした。

なお、今後も学校の先生や教育研究者らと「スクール・ミュージアム」を使った授業の研究会を設け、教材を使ったさまざまな展開方法などを検討し、事業をさらに充実させる。

平成17年 9月 事業案の作成

10月 協力委員への依頼

11月 展示パネル等教材のデザイン案の打ち合わせ

12月 第1回制作会議（事業の説明会、展示パネルのデザイン）

第2回制作会議（展示パネルの決定、アートカード等の計画）

平成18年 1月 展示パネル制作にあたり、制作会社との打ち合わせ

第3回制作会議（ガイドブックと出前授業の計画）

2月 第4回制作会議（ガイドブックの内容と出前授業の詳細を決定）

アートカード及び展示パネル完成

豊玉中学校にて出前授業の打ち合わせ

練馬第三小学校にて出前授業の打ち合わせ

★2月23日（木）豊玉中学校にて出前授業（5・6時間目）

★2月28日（金）練馬第三小学校にて出前授業（5・6時間目）

★3月9日（木）練馬第三小学校、美術館で「コレクション展」を鑑賞。

3月11日（土）「コレクション展」開催中、アート・カードと小型卓上パネルを使った鑑賞のワークショップを実施

3月下旬 ガイドブック完成

ガイドブック送付

[今後の予定]

4月 練馬区図工部会にて「スクール・ミュージアム」の説明会

5月以降 区内小・中学校で教材を使った鑑賞の授業

「スクール・ミュージアム」の研究会

練馬区美術研究会（中学）にて説明会（詳細検討中）

(2)地域との連携について

「どこでも展覧会 スクール・ミュージアム」の制作にあたり、学校現場で活用しやすい教材の形状と楽しく授業が展開できるように、学校との連携事業で実績のある区内小・中学校の図工および美術教諭をはじめ、区在住で美術館と学校の連携事業に詳しい教育研究者、公共施設等の児童向け遊具開発をされている地元日大芸術学部デザイン学科の教授らにご協力いただいた。今後、「スクール・ミュージアム」の研究会にも参加してもらい、事業の運営にご協力いただく。

2月に協力委員の教諭の学校で、教材を使ったモデル授業を実施した。

●2月23日(木)練馬区立豊玉中学校 美術での鑑賞の授業

【学年】 中学2年生 1クラス (2年C組)

【場所】 美術室

【指導教諭】 美術教諭 高村輝美

【授業の課題】 「絵のさまざまな見方・感じ方を見つける」

【使用した教材】

①大型展示パネル4台とマグネットカード約40枚を使用

※マグネットカードは104枚の中から授業の課題に合わせて生徒が選択

②アートカード104枚、卓上小型展示パネル7台

【内容】 この授業では、コレクションカードの種類が多いことを生かして、幅広いジャンルの作品の中から、さまざまな絵の見方・感じ方を発見することを課題に授業を展開した。まず、7つのグループに分かれ、コレクションのアートカードを使って、「喜び・怒り・哀しみ・楽しい・かわいい・切なさ・優しさ」などの感情をテーマに作品を選んだ。選んだ視点をグループで話し合い、鑑賞カードに記入。大型展示パネル4台の両面を使って展示発表。全員で各グループが選んだ作品を鑑賞した。最後に、各グループの作品の中から共通の作品を教諭が選びだし、空いているパネル面に展示。異なる感情のテーマで選んでも、人によって見方や感じ方がちがうことを解説した。

テーマにそってアートカードを選ぶ



グループで学習発表



●2月28日(火)練馬区立練馬第三小学校 図工での鑑賞の授業

【学年】小学6年生1クラス(6年1組)

【場所】図工室・多目的ホール

【指導教諭】図工教諭 岡野彰夫

【授業の課題】「五・七・五のリズムにのって絵を見れば」

【使用した教材】

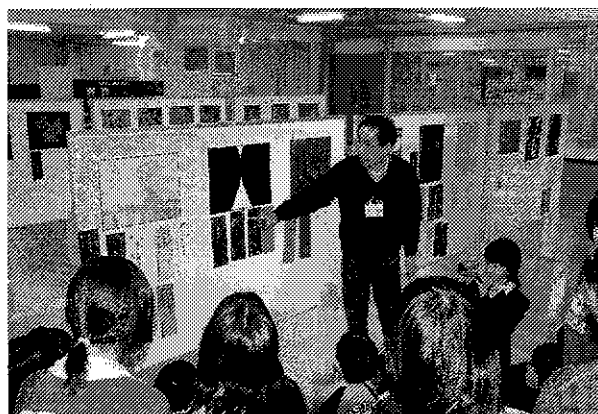
①大型展示パネル6台、②マグネットカード38枚、③アートカード38枚

※マグネットカードとアートカードは、美術館で「コレクション展」の中から選択

【内容】大型展示パネルとコレクションのマグネットカードを使って、開催中の「コレクション展」の移動美術館を小学校の多目的ホールで開催。俳句作りが得意なクラスの特性を生かし、絵から感じるものを俳句のリズミカルな言葉で表現するというユニークな学習が行われた。作った俳句の短冊はマグネットカードの作品と合わせて展示し、生徒が絵のどんなところにひかれて俳句をつくったかについて学習発表した。3月9日(木)に、美術館で「コレクション展」の鑑賞も合わせて行い、俳句でよんだ絵のさまざまな印象とくらべながら本物の作品の迫力を目で確かめた。



アートカードを見ながら俳句作りを楽しむ生徒。



移動美術館の会場に移動。作った短冊をパネルに展示して学習発表。

●3月11日 絵を見るためのワークショップ

「コレクションカードを使った遊びを通して絵の見方を広げよう！」

【時間】午後2時～(1時間程度)

【場所】美術館創作室

【参加者】幼児～小学生 10名

【講師】文教大学教育学部助教授 三澤一実

【使った教材】卓上小型展示パネル4台、アートカード104枚

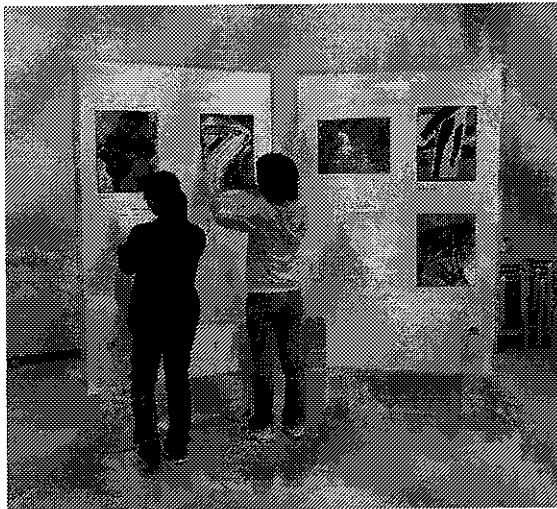
【内容】アートカードを使ったモチーフの探偵ゲームなどを楽しんだ後、「コレクション展」を鑑賞。カード遊びを楽しみながら、さまざまな絵の表現に興味を広げた。

(3) 成果物について

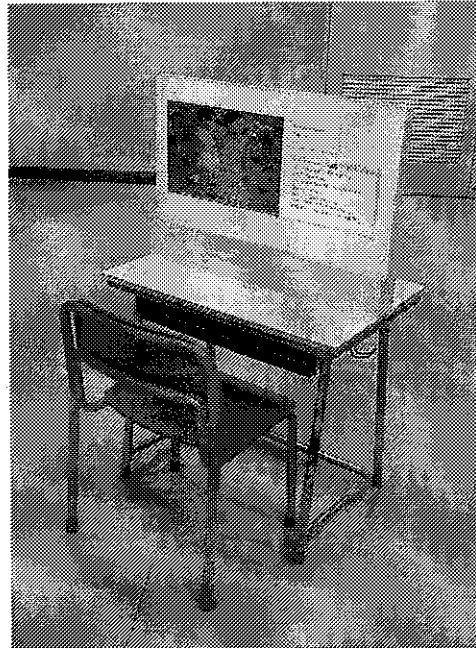
下記の3種類を作成した。

①「子ども美術館セット」貸し出し用

イベント用大型展示パネルとA3大のマグネットカード



小型卓上展示パネルとA4大のマグネットカード



● イベント用大型展示パネル 6台

【大きさ】縦120×横180×厚3センチ

【材質・形状】木製。専用台にはめこむ組み立て式（展示パネル高さ調整板つき）。パネルは両面スチールシート張り。

【用途】「コレクション展」に伴う移動美術館や「子ども美術館」の展示をするための教材。パネルは足の台にはめこむ自立型で、用途や生徒の身長に合わせて横型にも縦型にも使える。横型の場合は、台の高さを小学校低学年サイズと高学年サイズの2段階に調節できる。組み立てには大人の介助が必要ある。利用者の用途や展示スペースによって、さまざまな使い方がきる。1台から利用可。

● 卓上小型展示パネル 25台

【大きさ】縦50×横60×幅40センチ(組み立てサイズ)

※パネルサイズ：縦50×横60センチ×厚1.5センチ

【材質・形状】木製。専用台にはめこみ式。

展示パネル板（片面スチールシート張り）2枚組。

【用途】学習机に設置して使用する教室サイズの展示パネル。後片付けから撤去まで低学年の生徒でも簡単にでき、座ったままで作業から展示までを楽しめる。グループ活動による授業に向いている。小型のため宅配でも運搬ができ、遠方の学校でも教材を使った授業を体験することが可能で、マグネットカードはA4サイズを使用する。また、大型展示パネルを使った展覧会作りのシミュレーションの教材としても活用できる。

●コレクションのマグネットカード A3大・A4大 各104枚

【大きさ】 A3大：約縦42×横30センチ、A4大：約30×21センチ

【材質】1.0ミリの塩化ビニールシートに所蔵作品の写真をインクジェット印刷したもの。表面ラミネート加工。

●マグネットキャプション 104枚

【大きさ】 60×120ミリ

【材質】1.0ミリの塩化ビニールシートに所蔵作品の写真をインクジェット印刷したもの。表面ラミネート加工。

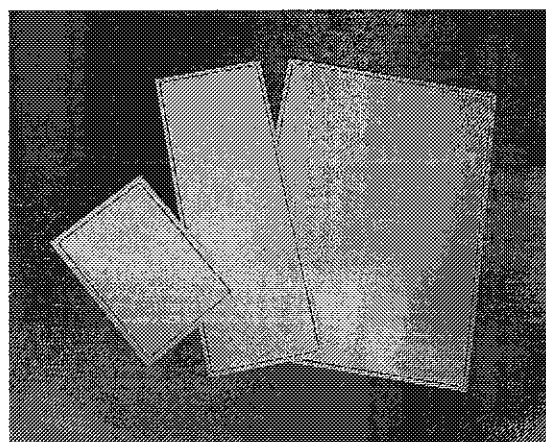
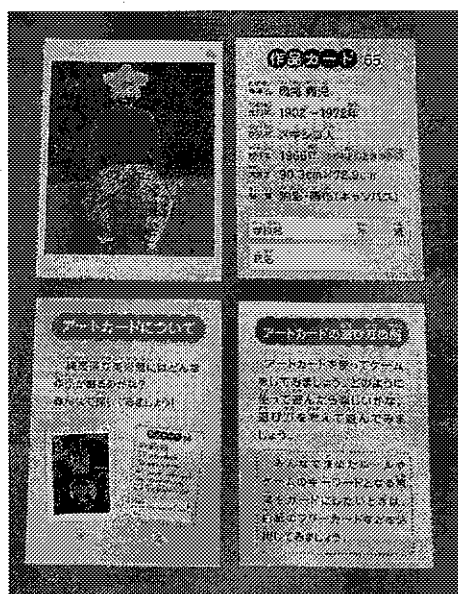
②「アートカードセット」 2,500組 配布用(在庫がなくなったらレンタルになります)

上：アートカード(左が表面・右が裏面)

フリーカード(3種類)

下：使い方カード

右：カルタ用、中：題名用、右：感想文用



【大きさ】A4サイズ(ミシン線加工)のシート 16枚組み

※切り離したアートカード : 10.6×7.5センチ (左上写真参照)

※フリーカード (カルタ用) : 10.6×7.5センチ

※フリーカード (題名用) : 29.9×7.5センチ

※フリーカード (感想文用) : 29.9×14.8センチ

【材質・形状】紙製図版カード(表面：4色刷り、裏面：1色刷り)

※104点の図版カードと作品の基礎データーを掲載したトランプ大のアートカードが13シート。フリーカード・アートカードの解説・スタンプカード(「美術館へ行こう」)などが刷り込まれたワークシートが3シート。いずれも手で容易に分離できるように、ミシン線加工が施されている。

【用途】 従業の目的に合わせて絵を分類したり・作品を選んだりするときに使う教材で、展覧会作りのシュミレーションなどに活用できる。その他、アートカードはフリーカード(学校が用途に合わせて自由に記入できるカード)とうまく組み合わせて活用することにより、コレクションの絵からイメージを広げたゲーム遊びや百人一首などのカルタもつくることができ、子どもが楽しみながら絵に興味を広げるためのツールである。

③「ガイドブック(指導者向け)」1,500冊

【形状】A4版 2色刷り 36頁 1,500部

【内容】教材の使い方、モデル授業の例、教材の利用案内などを掲載した教師向けのハンドブック

(4)参加者の反応

学校での鑑賞の授業の場合、興味のある子ども達を対象に実施する美術館の鑑賞教室とは異なり、図工や美術が嫌いな子も対象となるため、気軽に使えるマグネットカードやアートカードを使った授業は楽しかったようである。得に中学生はあきてしまうのではないかと心配したが、「さまざまな種類のコレクションカードの中から好きな作品を自由に探すことができた」という点と、単に作品解説を聞くだけでなく、マグネットカードやアートカードによる手作業が加わったことが、生徒にとって楽しい鑑賞の授業になったようである。

小学校への移動美術館の設置は、学校側の事情で授業の前日に行い、授業の当日は朝から1日生徒が自由に鑑賞できるようにした。今回の授業では、マグネットカードの展示を生徒が体験できる機会はなかったが、休憩時間に見に来た子の中にはマグネットをついたり、はったりして楽しんでいた子もいたようである。授業を実施した小学校は美術館から歩いて徒歩1分の場所にあるため、下校後、10名ほどの生徒が自主的に美術館に作品を見に来てくれた。「コレクション展」を見た後、生徒との談話の中で、「授業の後、美術館で実際の作品はどうなのか確かめたくなった」、「本物の作品は迫力があつた」などの感想を聞くことができた。

感想文の例)豊玉中学校2年男子生徒

「授業を行う前は、正直やりたくないな、2時間続きでめんどうだと思った。でも、実際にやってみたときは、いつでも違う発見ができたし、何しろ鑑賞の授業がここまで楽しいと思いませんでした。それを時間をかけて見ることによって、見方が増えていくので、この授業のおかげで、鑑賞が大好きになりました。もし、ひまがあつたら美術館に行つて時間をかけて作品を見たいと思います。」

感想文の例)豊玉中学校2年女子生徒

「今日、はじめてこの授業をやってみて、普段はなにげなく見ている絵を、新たな面で、じっくり味わうことができました。私が選んだ3枚(アートカード)の他にも、班の人たちは、私とは別の面を見て、私にたくさんの事を学ばせてくれました。「絵はこんなにも気持ちを強く伝えることができるかなあ」と感動しました。今回は本物の絵ではありませんでしたが、今回の経験で、「練馬区立美術館にひまな時行つてみたいなあ」と思いました。以下省略。」

(5)芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

2月に教材が完成してから、区内小・中学校2校と当館主催の鑑賞のワークショップ1回の計3回しか実施していないため、具体的な成果は、今後の教材の活用方法の研究と実践を繰り返し、長期的なスパンで観察することが必要かと思われる。

当区では、社会科の授業で練馬区史(専用のテキストがある)も合わせてとり

あげており、区の文化財は学校の授業で学ぶ機会がある。2回のモデル授業の中で手応えがあったことは、学校の授業を通して活用してもらうことにより、練馬区に美術館があることや美術館にはさまざまなコレクションがあることを知ってもらうきっかけになったことである。

この教材のアイデアを思いついたのは、2年前に他区の小学校から依頼があり、試作で制作したパズル仕立てのコレクションのマグネット絵画を1点持って出前授業に行ったときの経験からである。単に作品をスライドやプロジェクターで見せ、作品解説をただけでは美術が嫌いな生徒はすぐにあきてしまいがちであるが、マグネット絵画を使った授業は、多くの生徒が関心をもって鑑賞の授業を楽しむことができた。芸術拠点形成事業では、対象とする学年や教諭の考え方によって授業の内容がアレンジできるように、特定のジャンルの作品に限定しないで、幅広い視点から作品をリストアップし、シンプルなマグネットカードを制作した。副教材として制作したアートカードと組み合わせて授業を進めることで、幅広い授業の可能性があることもわかった。

今後は、1点1点の作品の世界へ興味を広げられる補助教材の制作なども念頭にいれながら、事業をさらに充実させたいと考えている。

(6) 新聞記事等

本事業では、出前授業の日程の変更が予測されたため、マスコミへのピーアールはしていない。